

急激な空腹時血糖の増加で心臓血管リスク上昇

心臓血管病の発生率において、空腹時血糖の変動について検討した研究はほとんどない。本研究では、日本人集団を対象としたコホート研究（吹田研究）で、心臓血管病の発生と空腹時血糖の変動によるサブグループを評価した。

対象となったのは1989～2013年に吹田研究に参加した男性3,120例と女性3,482例で、追跡期間中央値はそれぞれ17.2年、20.2年であった。追跡期間中に男性で356件、女性で243件の心臓血管イベントが発生した。男性は3つのサブグループに分けられ、そのうちの1つは空腹時血糖が急激に増加し（40～80歳で96.5-205.0mg/dL）、心臓血管病累積発生率が高かった。また、女性は2つのサブグループに分けられ、そのうちの1つは空腹時血糖が急激に増加し（40～80歳で97.7-190.5mg/dL）、心臓血管病発生率がもう一方のサブグループよりもわずかに高い傾向がみられた。

したがって、心臓血管病の予防において、空腹時血糖が急激に増加した人では、心臓血管病の危険因子の管理がとくに重要であるかもしれない。

出典：Journal of American Heart Association. 2019; 8(3): e010628.